



富士フイルムホールディングス株式会社
個人投資家向け会社説明会

2023年1月25日

証券番号 4901

**NEVER
STOP**

FUJIFILM
Value from Innovation



目次

01. 富士フィルムグループについて

02. 富士フィルムグループの目指す姿

03. 中期経営計画“VISION2023”の進捗と直近の業績

04. 成長を牽引する事業

05. 株式・株主情報



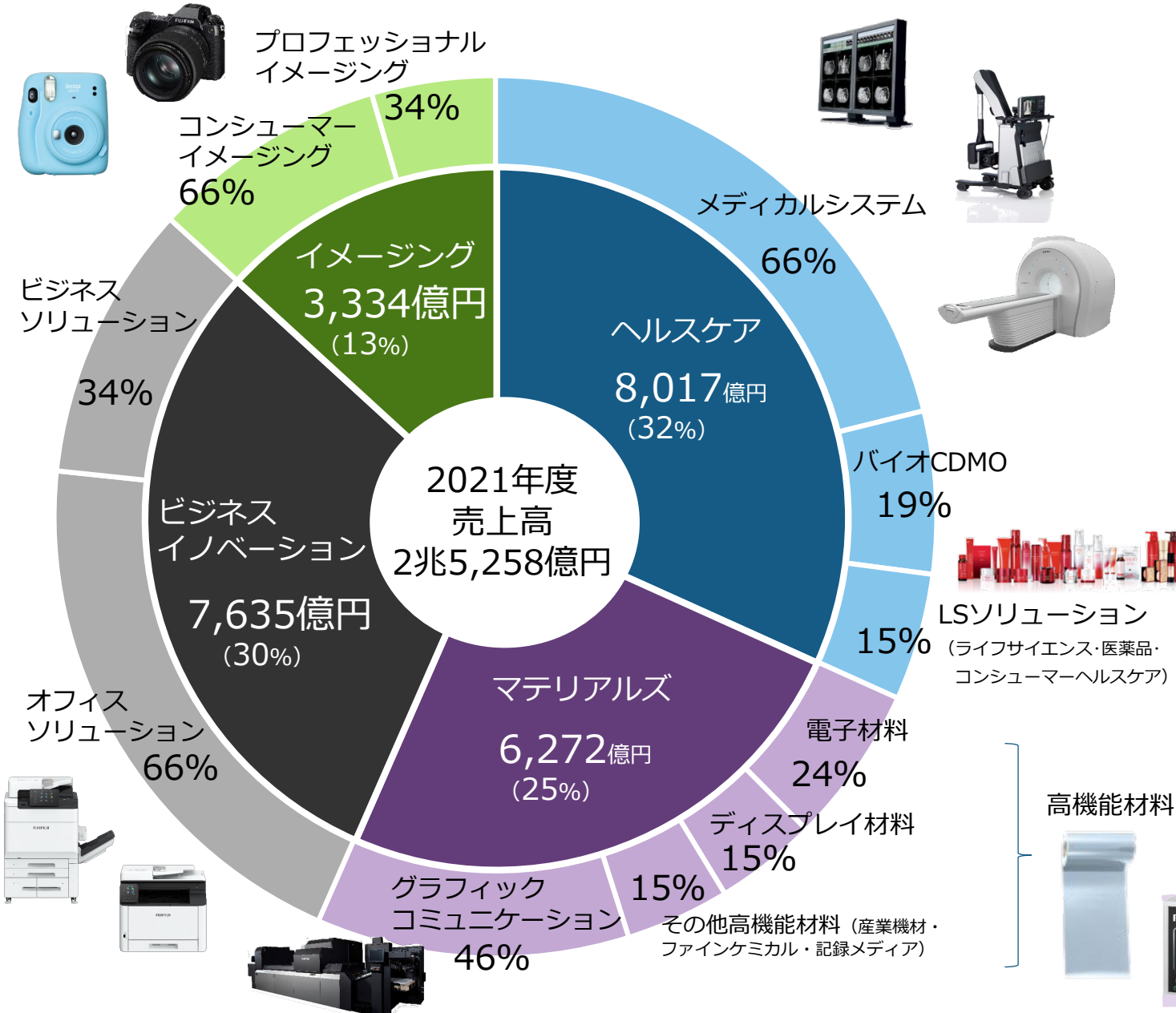
01. 富士フイルムグループについて

会社概要

社名	富士フイルムホールディングス株式会社	
トップマネジメント	代表取締役会長・取締役会議長 助野 健児 代表取締役社長・CEO 後藤 禎一	
設立	1934年1月20日	
連結売上高	2021年度	25,258 億円
営業利益	2021年度	2,297 億円
当社株主帰属当期純利益	2021年度	2,112 億円
ROE	2021年度	9.0 %
連結子会社数	2022年3月31日時点	280 社
連結従業員数	2022年3月31日時点	75,474 名

富士フイルムグループの事業構成

事業別売上高構成比（2021年度）



▶ヘルスケア

トータルヘルスケアカンパニーとして「予防」「診断」「治療」の領域で幅広い事業を展開

▶マテリアルズ

AI・IoT時代の生活を支える通信機器、センサー、次世代ディスプレイなどに向けた高機能材料やグラフィックコミュニケーション事業を展開

▶ビジネスイノベーション

新しい働き方への変革や生産性の向上、創造性の発揮をもたらす、製品及びソリューションサービスを提供

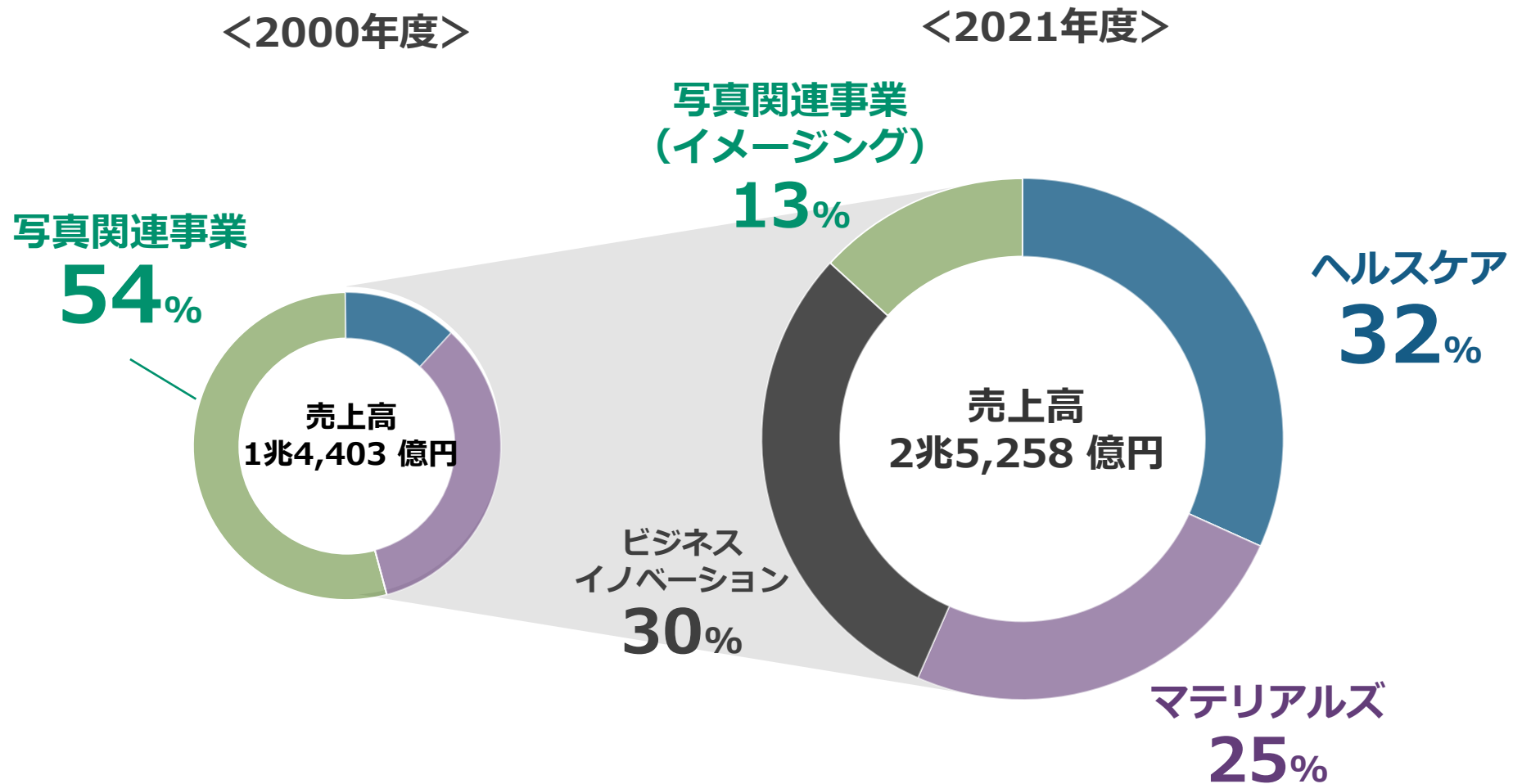
▶イメージング

「撮影」から「出力」まで、写真・映像に関わる製品・サービスを提供

事業構成の変化

2000年度に売上高の過半を占めていた写真関連事業は、重点領域のヘルスケアの伸長などにより2021年度には13%にヘルスケアは売上の32%を占める最大の事業セグメントに成長

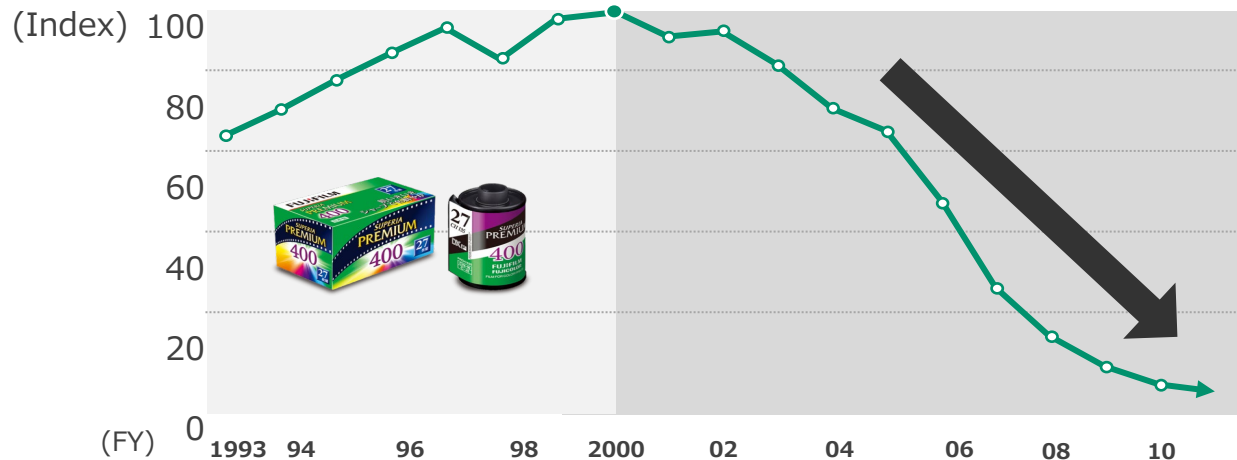
過去20年間の事業構成の変化



本業消失の危機と事業構造の転換

2000年以降、本業である写真フィルムの市場が急速に縮小。本業消失の危機を乗り越えるべく、事業構造の転換を実施
写真フィルムで培った技術の棚卸を行い、重点領域と定めた事業分野に経営資源を集中的に投入

<カラー写真フィルムの需要の推移>



重点事業分野選定の3つのポイント

成長市場か？

当社の技術を
生かせるか？

競争力を維持
できるか？

<2000年代に行った当社技術の棚卸>



ヘルスケアにおいて
化粧品事業・医薬品
事業に新規参入

本業消失の危機と事業構造の転換

写真フィルム市場の急激な縮小を背景に、2000年代は成長領域を探索すべく新たな市場に参入
2010年代に成長領域を見極め、積極的なM&Aを継続的に実施したことが2020年代の成長期への布石となっている

2000年代 成長領域の 探索期

写真フィルム市場の急激な縮小を背景に技術の棚卸を実施。今後の成長領域として**化粧品事業・医薬品事業**に参入

ヘルスケア

- 【2008】 富山化学工業買収
医薬品事業に本格参入
- 【2006】 機能性スキンケア化粧品発売
化粧品市場に参入

マテリアルズ

- 【2004】 Arch Chemicals
半導体関連化学品部門 買収
半導体材料事業に本格参入

ビジネスイノベーション

- 【2001】 富士ゼロックス連結子会社化
(当社持分75%)

2010年代 成長領域の 検証期

市場の拡大を見据え**バイオCDMO事業**に本格参入。当社が優位性を発揮できる分野を検証し、見極めながらM&Aを積極的に実施

ヘルスケア

- 【2011】 MSD Biologics/Diosynth買収
バイオCDMO事業に本格参入
- 【2012】 Sonosite買収・超音波診断参入
- 【2015】 Cellular Dynamics International
(iPS細胞の開発・製造) 買収
- 【2017】 和光純薬工業買収
- 【2018】 Irvine Scientific Sales
Company買収・培地分野の拡大
- 【2019】 Biogen(Denmark) Manufacturing
買収・バイオCDMOの成長加速

ビジネスイノベーション

- 【2019】 富士ゼロックス完全子会社化
(当社持分100%)

2020年代 成長期

富士フィルムグループのシナジー創出を加速させながら、産業や社会にポジティブなインパクトをもたらす価値の創出に注力。2030年度に全社売上高**3.5兆円**を目標とする

ヘルスケア

- 【2021】 日立製作所の画像診断関連事業を
承継した富士フィルムヘルスケア買収
(CT・MRIがラインアップに追加)

ビジネスイノベーション

- 【2021】 富士ゼロックス社名変更
富士フィルムビジネスイノベーションへ



02. 富士フイルムグループの目指す姿

富士フイルムグループの目指す姿

「Sustainable Value Plan 2030 (SVP2030)」で掲げた目標を実現するために、2021年4月公表の中期経営計画「VISION2023」で定めた重点施策を推進し、サステナブル社会の実現に貢献していく

VISION 2019

2019年度実績

売上高 2兆3,151億円

営業利益 1,866億円

CO₂排出削減 25%(2013年度比)

VISION 2023

2023年度目標

売上高 2兆7,000億円

営業利益 2,600億円

CO₂排出削減 11%(2019年度比)

Sustainable Value Plan 2030 (SVP2030)

2030年度目標

売上高 3兆5,000億円以上

CO₂排出削減 50%(2019年度比)

サステナブル社会の実現に向け、「事業を通じた社会課題の解決」「事業プロセスにおける環境・社会への配慮」の両面から4つの重点分野（環境、健康、生活、働き方）と事業活動の基盤（サプライチェーン、ガバナンス）におけるそれぞれの目標を設定

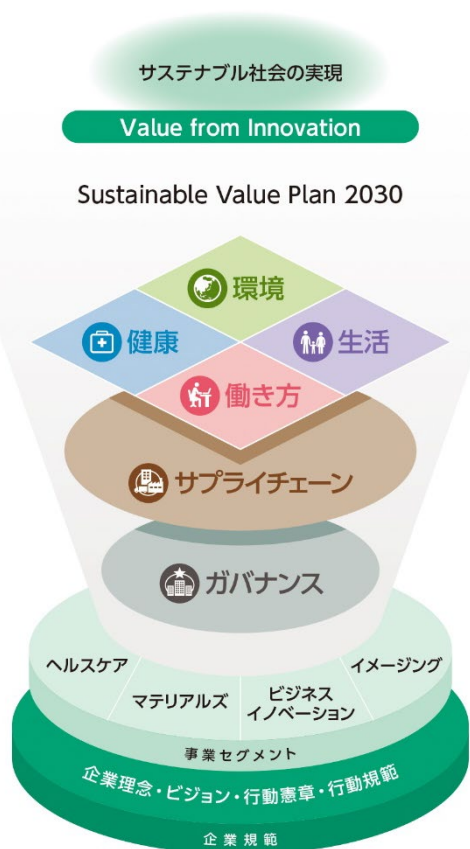
サステナブル社会の実現 Value from Innovation

- ・ グローバル規模の環境・社会の課題を“イノベーション”で解決する
- ・ 事業を通じて、社会にポジティブなインパクトを与える
- ・ ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、社会の期待に適切に応える

SVP2030における目標設定

SVP2030では、2030年に想定される「解決すべき社会・環境課題」と「富士フィルムグループの事業成長」の観点から重点課題(マテリアリティ)を特定

重点分野・重点課題(マテリアリティ)	事業セグメント	SDGs目標
<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動への対応 IP13 資源循環の促進 エネルギー問題への対応 製品・化学物質の安全確保 	<p>ヘルスケア マテリアルズ ビジネスイノベーション イメージング</p>	
<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 「予防」「診断」「治療」すべての領域における、最先端の製品・サービスのグローバルな提供を通じて、医療格差を是正し健康的な社会を構築する 	<p>IP12 ヘルスケア</p>	
<p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端の機能性材料の開発・提供を通じてDXが促進される時代の安心・安全な社会づくりに貢献する 写真・映像領域における、高品位・高性能の製品・サービスの開発・提供を通して、人生の豊かさや平和な暮らしに貢献する 	<p>マテリアルズ イメージング</p>	
<p>働き方</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性の向上・創造性の発揮をもたらす製品・ソリューションサービスをグローバルに提供することで、誰もが働きがいを得られる社会の変革に貢献する 	<p>ビジネスイノベーション</p>	



【健康】 事業を通じた社会課題の解決

事例1：新興国における健診サービス事業



▶ 「NURA」

- インドで開設したがん検診を中心とした健診センター
- 当社の医療機器・AI技術を活用してがん・生活習慣病の早期発見に貢献
- インドに2拠点を開設（ベンガルール・グルグラム）、3拠点目をムンバイに開設予定
- 経済産業省「アジアDX促進事業」に採択

<受診者数>
2022年11月末

約 **5,500**人

<目標拠点数>
2030年度までに

100拠点

事例2：結核対策への取り組み

結核について

- 2020年には世界で推定1,000万人が罹患し、150万人が亡くなっている
- 年間400万人の感染者が発見出来ていないと言われており、スクリーニング検査が重要

▶ 「FDR Xair」

- 軽量・小型で電源不要な携帯型のX線撮影装置
- デジタルX線画像診断装置「カセットDR」との組み合わせが、結核検診のための胸部X線装置として「Stop TB Partnership*」の推奨を取得

世界で実施される結核検診の検査から投薬治療までのデータをクラウドで一元管理するソフトウェアを現在開発中



携帯型 X線撮影装置
「FDR Xair」

*2001年にスイス・ジュネーブで世界保健機関(WHO)の傘下に設立された、様々なパートナーと連携して結核対策を行う連携機関、マルチセクター・パートナーシップ(連合体)

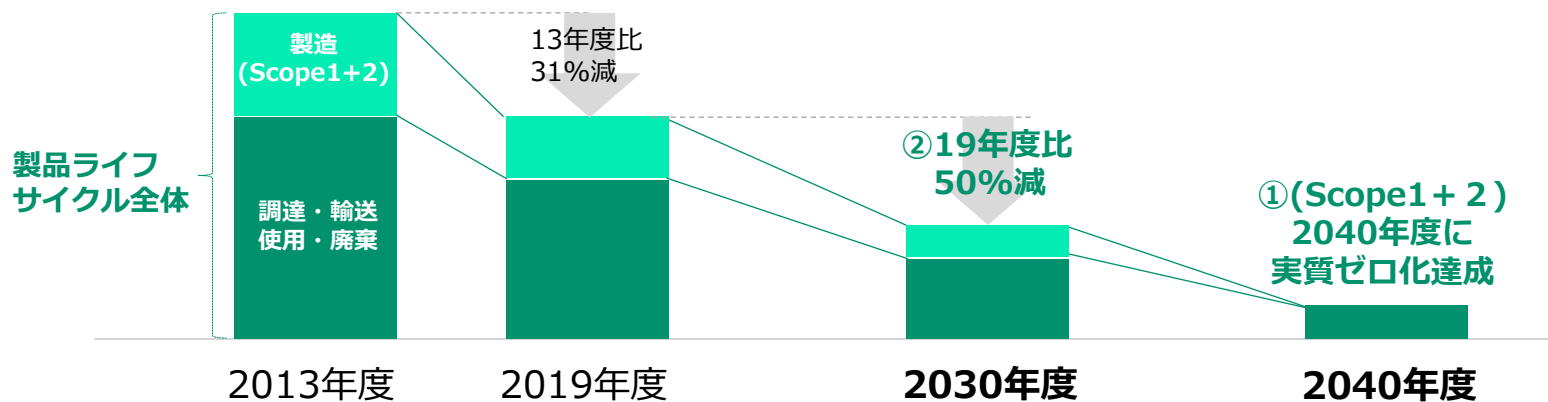
【環境】 気候変動への対応

富士フィルムグループの脱炭素目標

目標1 自社が使用するエネルギー起因(Scope1+2*1)のCO₂排出：**2040年度に実質ゼロ化**

目標2 製品ライフサイクル全体におけるCO₂排出削減：**2030年度に2019年度比50%減**

*1 Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出



取り組み事例

- カーボンニュートラル生産の実現に向けて、省エネルギー化とCO₂排出を伴わない燃料の活用に向けた新規技術開発を推進
- 神奈川事業場（足柄サイト）では、他社協業を通じたメタネーション*2技術の活用によるカーボンニュートラル生産の実現に向けた取り組みを開始
- 中国の複合機リサイクル拠点でカーボンニュートラルを実現（2022年7月）



【環境】 気候変動への対応

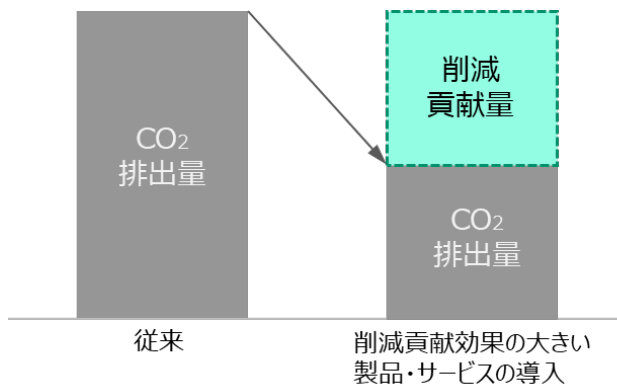
社会でのCO₂排出削減貢献の目標

目標3 社会でのCO₂排出削減累計量：**90百万t**（自社による累積排出量の2倍を上回る貢献）

▶ 社会でのCO₂排出削減貢献の目標

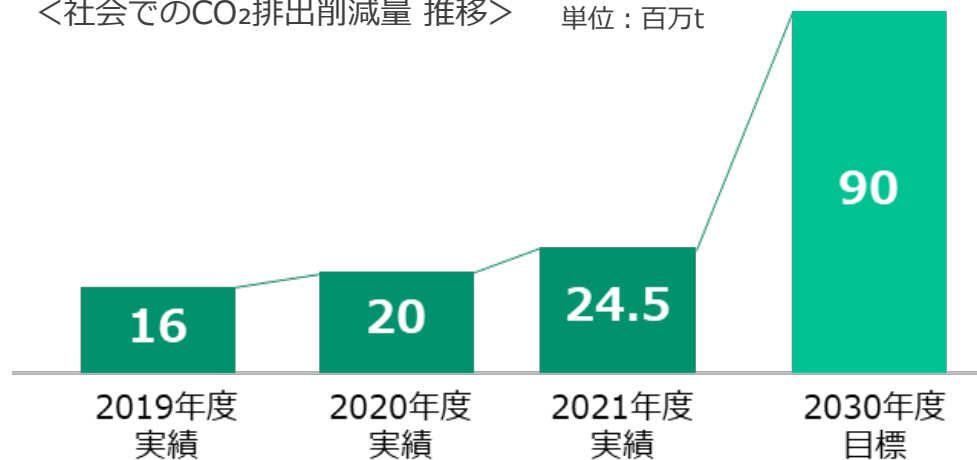
従来製品をCO₂削減効果の高い当社の製品やサービスに置き換えることで、社会でのCO₂排出削減に貢献する目標（2017年度以降の累計削減量）

<概念図>



<社会でのCO₂排出削減量 推移>

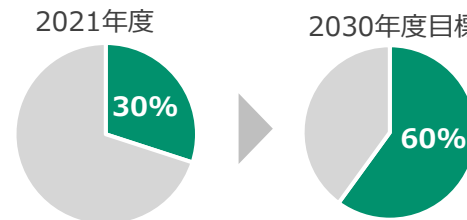
単位：百万t



取り組み事例

環境配慮に関する一定の基準を満たした富士フイルムグループの製品・サービスを社内認定する「**Green Value Products**」認定制度を2018年より運用し、社会でのCO₂削減に貢献

<Green Value Productsの全社売上構成比>





03. 中期経営計画“VISION2023”の進捗と直近の業績

中期経営計画“VISION2023”

骨子と重点施策

<計画の骨子>

- ✓ **ヘルスケア・高機能材料の成長加速**
- ✓ **持続的な成長を可能とする更に強靱な事業基盤の構築**
- ✓ **営業利益・当社株主帰属当期純利益で過去最高益を達成**

→2021年度に営業利益及び当社株主帰属当期純利益において過去最高を更新

<重点施策>

■ **事業ポートフォリオマネジメントの強化**

-事業フェーズに応じた適切な戦略実行

-グループ全体の経営資源の最適配分

→再生医療事業や放射性医薬品事業の売却を実行

-3年間で1兆2千億円の成長投資を実施

■ **さらなる成長に向けた新規市場参入**

■ **キャッシュフローマネジメントの強化**

-資本効率を意識した事業運営の徹底

-ROE/ROIC/CCC向上

■ **M&Aにより強化した事業の統合効果創出**

→富士フイルムヘルスケア*との統合効果創出

* 2021年3月31日に買収完了した(株)日立製作所画像診断関連事業の承継会社

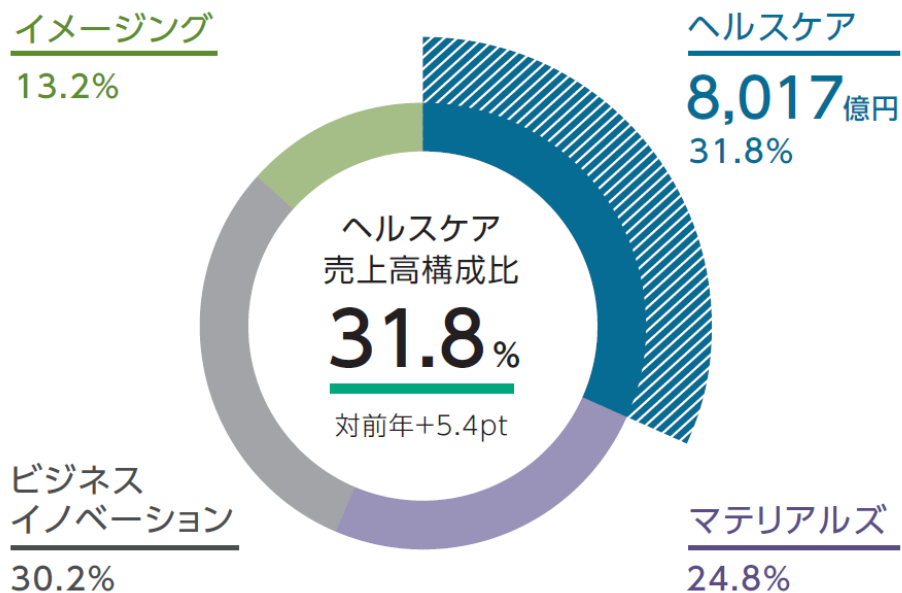
中期経営計画“VISION2023”

ヘルスケア・高機能材料の成長加速

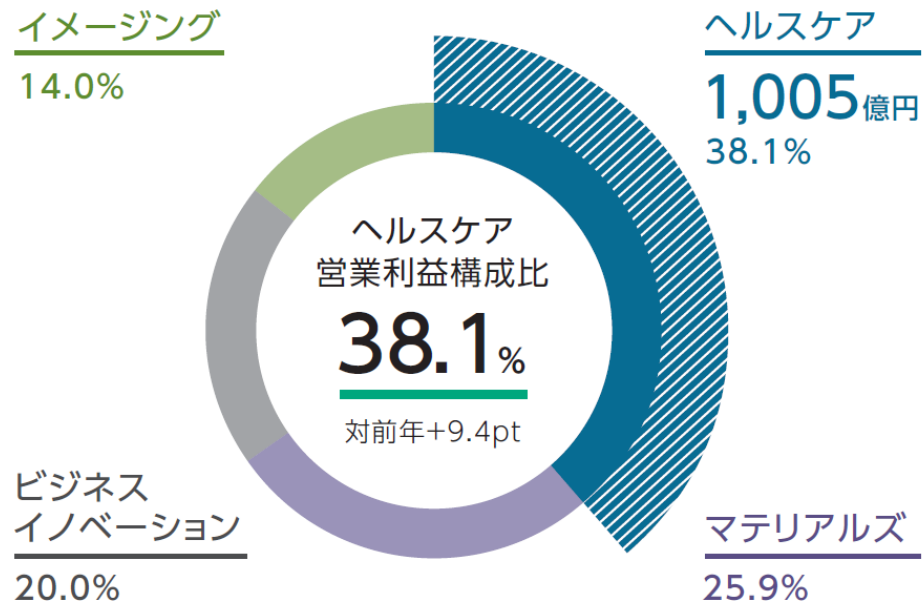
- ヘルスケアセグメントは、2021年度において売上高・営業利益ともに最大のセグメントに成長
- 高機能材料は、旺盛な半導体需要を背景とした電子材料事業の成長が牽引し大幅な増収・増益を達成

→ P27・P28「成長を牽引する事業」

<2021年度におけるセグメント別売上高構成比>



<2021年度におけるセグメント別営業利益構成比>



※ 営業利益の構成比は、全社／連結調整前

中期経営計画“VISION2023”

業績目標と現在の進捗

- 為替前提の見直しや今後の事業状況及び上期の業績を反映し、2022年度通期業績予想を上方修正
- 2022年度は、中期経営計画“VISION2023”の業績目標を1年前倒しでの達成を見込む

(単位：億円)

	2021年度 実績	2022年度 前回予想 (2022/8/10公表値)	2022年度 最新予想 (2022/11/10公表値)	2023年度 VISION2023	
売上高	25,258 100%	27,000 100%	28,000 100%	27,000 100%	
営業利益	2,297 9.1%	2,500 9.3%	過去最高 2,600 9.3%	2,600 9.6%	
税金等調整前当期純利益	2,604 10.3%	2,600 9.6%	過去最高 2,700 9.6%	2,650 9.8%	
当社株主帰属当期純利益	2,112 8.4%	1,950 7.2%	2,000 7.1%	2,000 7.4%	
1株当たり当社株主帰属当期純利益	527.33円	486.53円	498.64円	500.27円	
ROE	9.0%	7.6%	7.6%	8.4%	
ROIC	5.6%	5.7%	5.7%	6.1%	
CCC	122日	114日	114日	103日	
為替	：米ドル	113円	126円	135円	104円
	：ユーロ	131円	134円	136円	124円

2022年度上期の業績

2022年度上期の業績

- 売上高はメディカルシステム、電子材料、イメージングの伸長や為替影響などにより増収
- 営業利益は、部材・エネルギーコスト高騰などの影響を受けるも、増収に伴う増益により**上半期での過去最高益を達成**

(単位：億円)

売上高	上期		対前年度			
	2021年度	2022年度			為替影響除く	
ヘルスケア	3,756	4,161	405	+10.8%	-5	-0.1%
マテリアルズ	3,078	3,520	442	+14.3%	111	+3.5%
ビジネスイノベーション	3,734	3,984	250	+6.7%	58	+1.6%
イメージング	1,483	1,834	351	+23.7%	147	+9.9%
合計	12,051	13,499	1,448	+12.0%	311	+2.6%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	上期		対前年度			
	2021年度	2022年度			為替影響除く	
ヘルスケア	470	436	-34	-7.3%	-147	-31.4%
マテリアルズ	390	394	4	+0.8%	-96	-24.9%
ビジネスイノベーション	257	301	44	+17.5%	96	+37.6%
イメージング	124	266	142	2.1倍	73	+59.2%
全社/連結調整	-162	-189	-27	-	-25	-
合計	1,079	1,208	129	+12.0%	-99	-9.1%

過去
最高

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。



04. 成長を牽引する事業

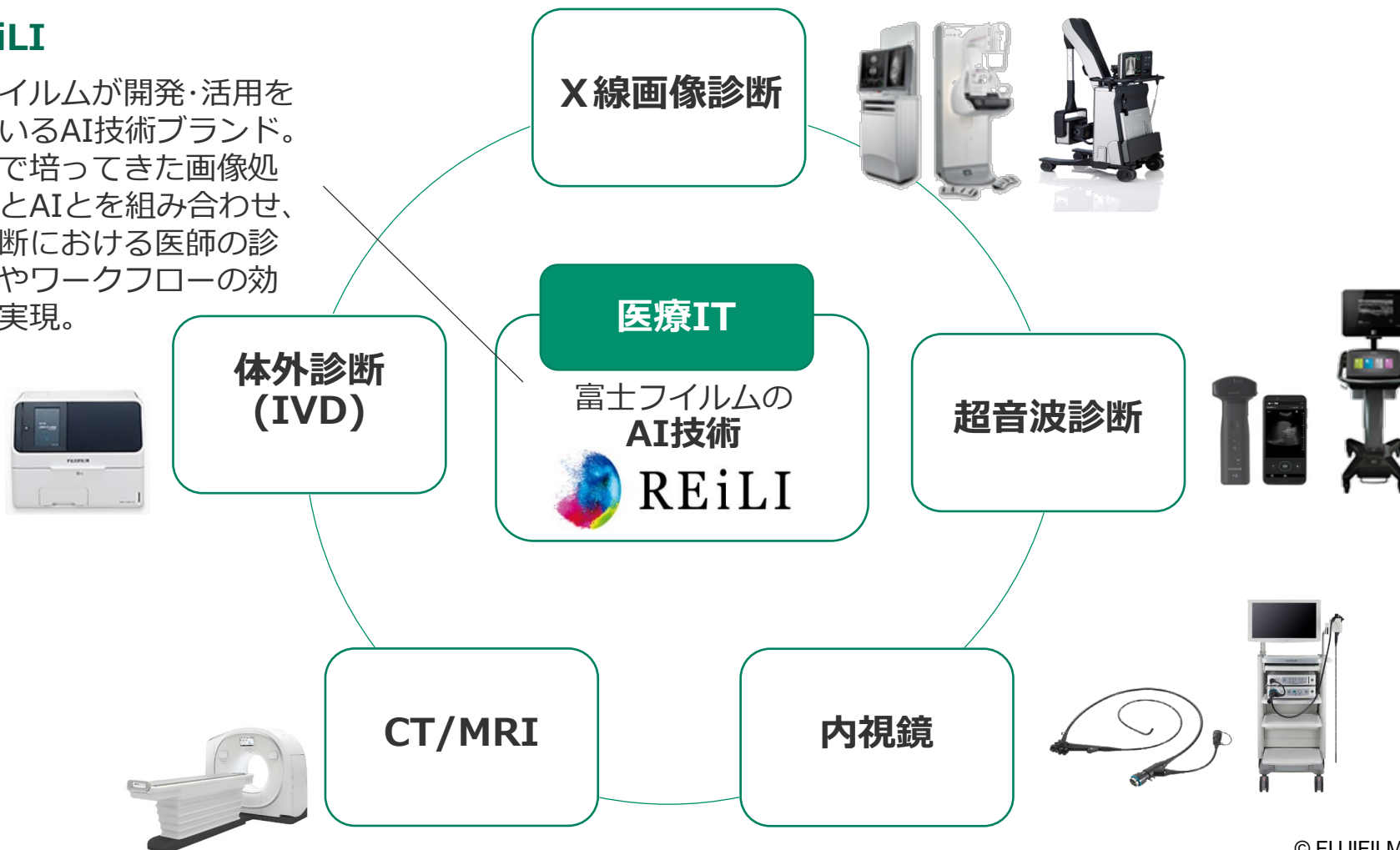
ヘルス케어-メディカルシステム事業

メディカルシステム事業の概要と当社の優位性

- 医療ITシステムを中核に、X線画像診断や内視鏡、超音波、体外診断（IVD）などの診断機器を提供
- 2021年に富士フィルムヘルスケア(日立製作所の画像診断関連事業を承継)が加わり、CT/MRIなどの製品ラインアップを拡充
- 幅広い製品ラインアップと当社のAI・IT技術の掛け合わせにより新たな価値を創出していく

▶ REiLI

富士フィルムが開発・活用を進めているAI技術ブランド。これまで培ってきた画像処理技術とAIとを組み合わせ、画像診断における医師の診断支援やワークフローの効率化を実現。



ヘルスケアーメディカルシステム事業

メディカルシステム事業の成長性

<事業戦略>

1. AI技術ブランド「REiLI」の下、AI・IT技術を活用した製品開発の加速による「AI・ITソリューションビジネス」での収益拡大
2. 富士フィルムヘルスケア*1とのシナジー創出
3. 体外診断（IVD）事業の海外マーケティング強化と拡販
4. 内視鏡事業における診断ソリューションビジネスの拡大
5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた社会貢献

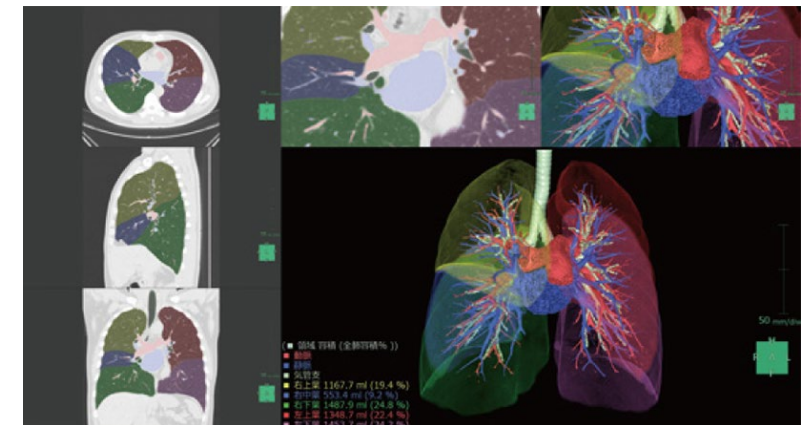
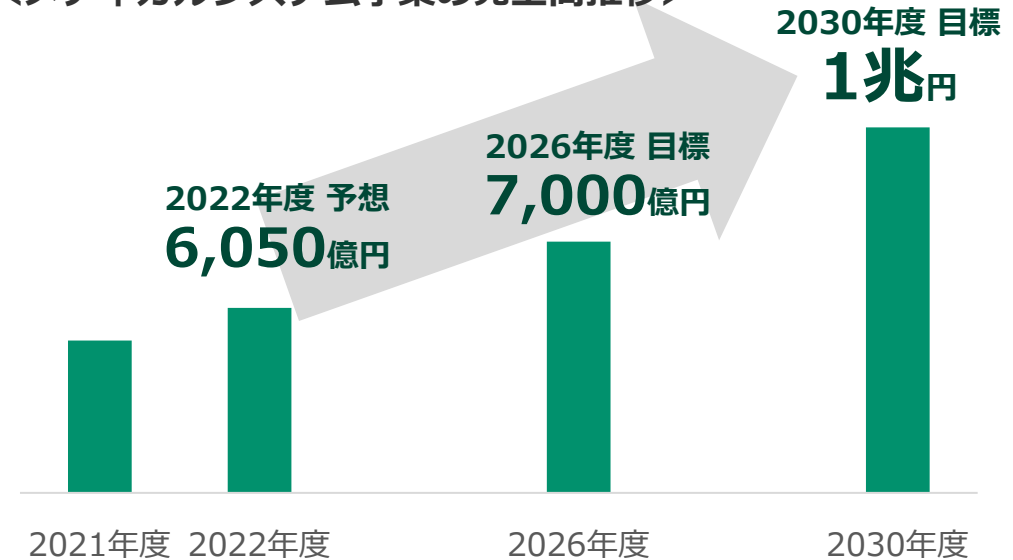
*1 2021年3月31日に買収完了した(株)日立製作所画像診断関連事業の承継会社

<AI・IT技術を活用した製品例>

▶ SYNAPSE VINCENT

- 「SYNAPSE VINCENT」は、CTやMRIなどの断層画像から高精度な3D画像を描出し、解析を行う3D画像解析システム
- CTやMRIの撮影件数は年々増加、低侵襲手術への進展に伴い、単なる形態診断でなく機能解析や術前シミュレーションの重要性が拡大
 - ・ 診断・治療計画における3D画像作成業務の負荷を低減
 - ・ 富士フィルムがAI技術*2を活用して開発した「自動臓器認識機能」により3D画像の構築～対象臓器の抽出～各種解析を半自動化し、ワークフローの効率化に貢献

<メディカルシステム事業の売上高推移>



単純CT画像(左)から肺動静脈を分離して3D画像(右下)を抽出する様子

*2 AI 技術のひとつであるディープラーニングを用いて設計。導入後に自動的にシステムの性能や精度が変化することはない

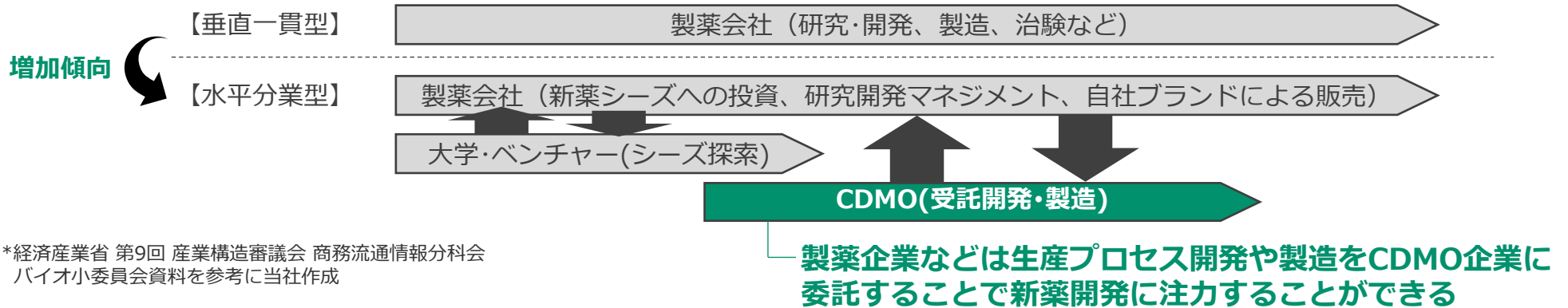
ヘルス케어 바이오CDMO事業

バイオCDMO事業の概要

・ バイオ医薬品の生産プロセス開発や製造を受託する事業

(CDMO:生産プロセスの開発受託及び製造受託を行う会社・組織。生産プロセス開発や安定性試験、治験薬の開発・製造、市販薬の製造など幅広いサービスを製薬企業などに提供する。Contract Development and Manufacturing Organizationの略)

<新薬の研究開発・製造・販売プロセス>



*経済産業省 第9回 産業構造審議会 商務流通情報分科会
バイオ小委員会資料を参考に当社作成

バイオ医薬品とは

<バイオ医薬品>



- ・ 細胞などに薬効成分であるタンパク質を作らせて製造
- ・ 製造が難しい一方、副作用が少なく、低分子医薬品では治療が困難であったがんや希少疾患への高い効果が期待できる
- ・ 設備投資や品質管理にかかるコストが低分子医薬品に比べ高額
- ・ 主なバイオ医薬品の例：抗体医薬品、ワクチン、遺伝子治療薬など

<低分子医薬品>



- ・ 目的とする化合物を化学合成して作られる医薬品
- ・ 製造コストが比較的安価

ヘルスケアーバイオCDMO事業

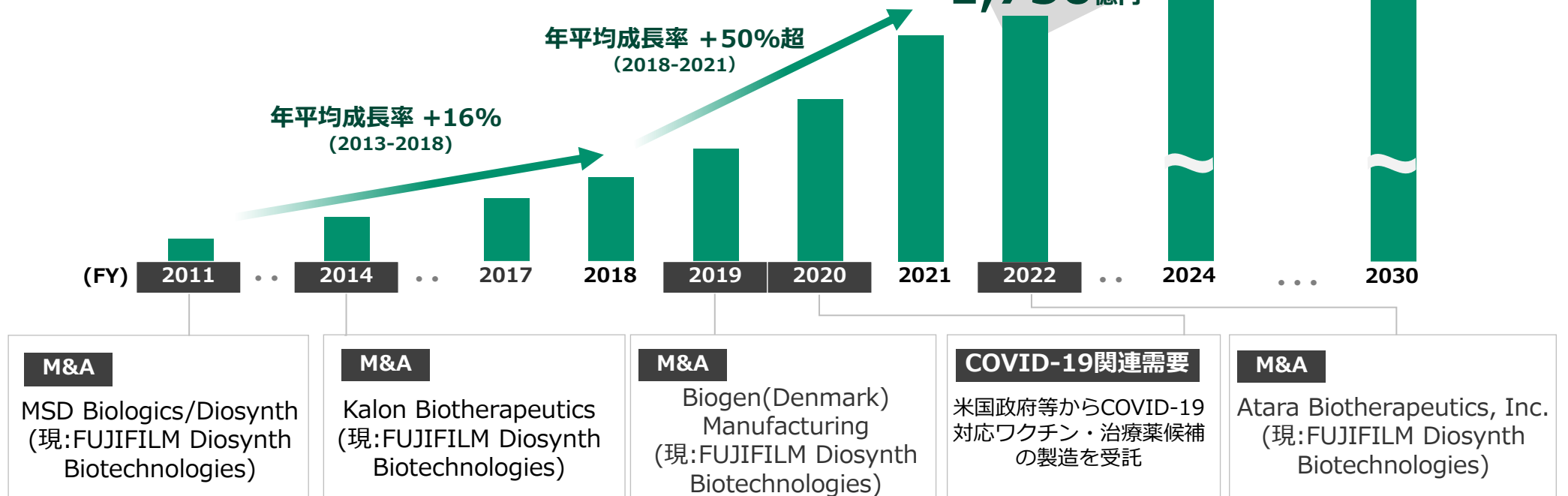
バイオCDMO事業の成長性と当社の優位性

- ・ バイオCDMO業界の黎明期である2011年に参入
- ・ 市場成長を見越した積極投資・能力増強により事業を拡大
→設備投資：累計**6,000億円強***1
- ・ 市場成長率13%*2を大きく上回る成長
- ・ 当社国内初のバイオCDMO拠点を富山県に新設

<バイオCDMO事業の売上高推移>

■ 当社の優位性

- ① 幅広いモダリティ*3への対応・少量から大量生産まで受託可能な体制
- ② 各モダリティにおける業界トップレベルの高生産性技術
- ③ 豊富な受託実績
- ④ 主要市場である欧米を中心としたグローバルな製造開発受託体制



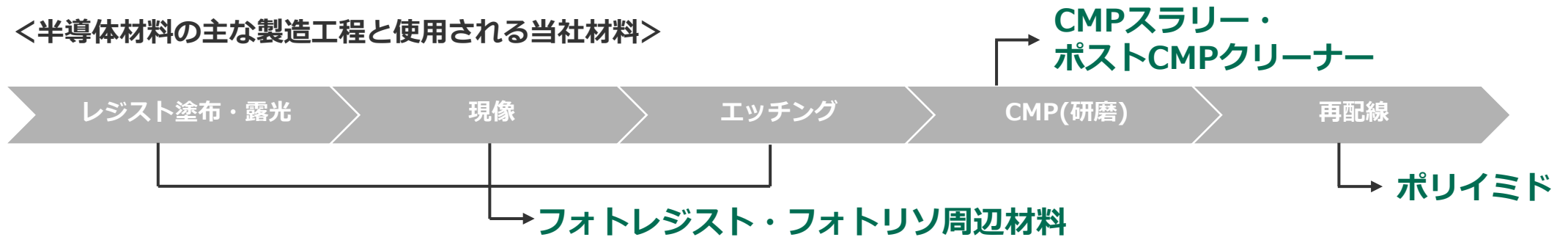
*1 発表済み案件の合計 *2 当社調べ。2018~2028年におけるバイオ原薬CDMO市場の年平均成長率 *3 抗体薬や遺伝子治療薬などの治療手段

マテリアルズー電子材料事業

電子材料事業の概要と当社の優位性

- 半導体の製造プロセスで使用される各種材料を提供
 - ➔ 「フォトレジスト」や「CMPスラリー」、3D集積化に必要な絶縁膜用「ポリイミド」など半導体の微細化・積層化を実現する幅広い先端材料

<半導体材料の主な製造工程と使用される当社材料>



<電子材料事業の優位性>



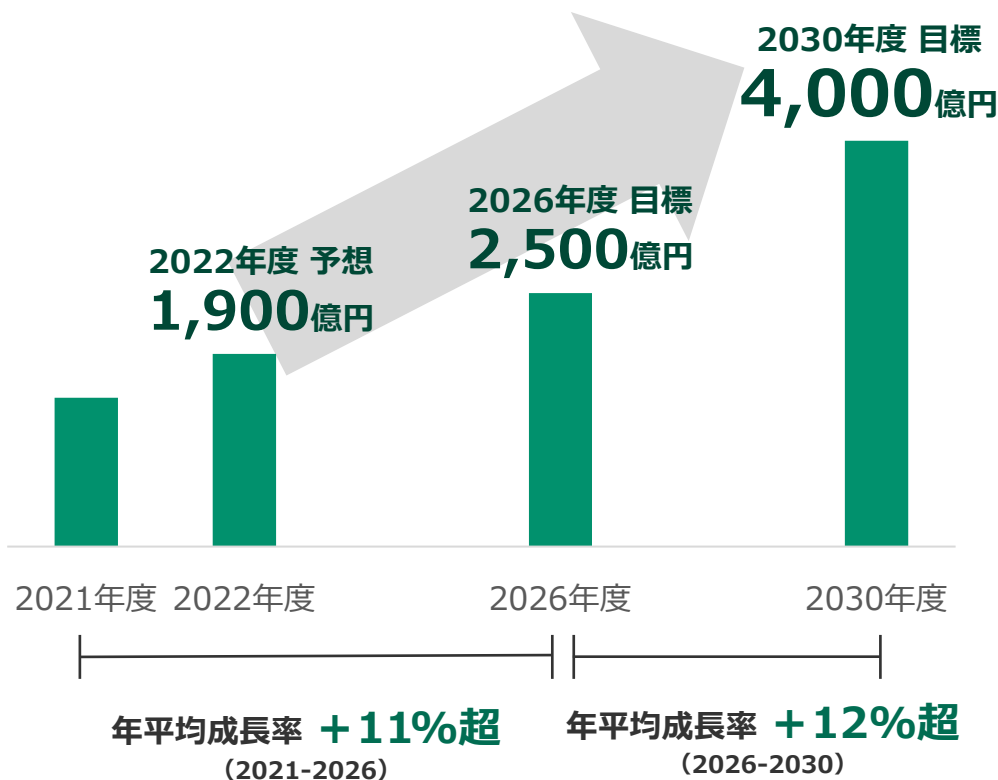
マテリアルズー電子材料事業

電子材料事業の成長性

- 中期経営計画“VISION2023”の対象期間（2021年度から2023年度の3年間）で**総額1,100億円**の成長投資を計画
- **半導体材料市場の年平均成長率9.4%***を上回る**当社事業成長率**

* 富士キメラ総研データより

<電子材料事業の売上高推移>



<熊本県における設備投資（2022年9月発表）>

- 半導体関連の投資が加速する熊本県に最先端半導体材料に対応した生産設備を新設
- 半導体製造プロセスの基幹材料「CMPスラリー」の最新鋭生産設備を導入
- 当社として国内初のCMPスラリー生産設備
- 稼働：2024年1月(予定)



富士フイルム九州 外観（熊本県菊池郡菊陽町）

ビジネスイノベーション

ビジネスイノベーションの概要と当社の優位性

- ・ オフィス向け複合機・プリンターに加え、お客さまの働き方改革・DX推進を支援するソリューション・サービスに注力
- ・ 富士ゼロックス（現・富士フイルムビジネスイノベーション）を100%子会社化したことで、グループ内の共通基盤や技術アセットの相互利用による、迅速かつ効率的な開発・生産やグローバルでの事業展開をさらに加速



オフィスソリューション

▶複合機・プリンター「Apeos」などのオフィス機器・消耗品

- ・ 日本およびアジア・オセアニア地域における強固な直販体制を強みにした優良な顧客基盤
- ・ 大手市場から中堅・中小企業向け市場まで幅広いお客さまとの強固な信頼関係



Apeos C7070

A3カラー複合機
アジア・パシフィック地域
販売台数シェア

No.1*

*富士フイルムビジネスイノベーション調べ



ビジネスソリューション

▶中堅・中小企業のDXを加速するソリューション「Bridge DX Library」

- ・ 建設業や製造業などの4業種及び業種共通の電子帳簿保存法やインボイス制度対応、セキュリティ強化等の業務課題ソリューションを提供
- ・ 当社が蓄積してきた課題解決の成功事例と豊富なソリューション・サービスを組み合わせた提案が強み

ラインアップ数
(2022年11月末)

103種類

▶新たな働き方を支援する個室型ワークスペース「CocoDesk」

- ・ 外出先や移動中のスキマ時間を活用し、デスクワークやWeb会議などのテレワークを行える個人専用のワークスペースとして、駅やショッピングモールに設置



イメージング

イメージングの概要と優位性

- “チェキ”「INSTAX」シリーズは世界100か国以上で愛されるユニークな製品
- 優れた色再現性を持つハイエンドミラーレスデジタルカメラは市場から高い評価を獲得
- 「撮る」「残す」「贈る」「飾る」多様なサービスを提供できる総合力を持つ「写真関連ビジネスのベストオーナー」

“写真関連ビジネスのベストオーナー”

撮る

残す

贈る

飾る

▶INSTAX mini Evo

デジタル機能を搭載し、好きな画像を選んでプリント可能。カメラ機能のほかスマホプリンターとしても活用可能な「INSTAX」シリーズの最上位機種



▶WALL DECOR

とっておきの写真を壁に飾れる、写真パネル加工を行うサービス。飾る部屋の雰囲気に合わせてスタイリッシュなパネルが作成可能



▶デジタルカメラ 「GFXシリーズ」「Xシリーズ」

独自の色再現技術による卓越した画質と小型軽量を実現するハイエンドミラーレスデジタルカメラ



▶フォトブック

たくさんの写真から、簡単に1冊のアルバムが作成可能。自動的に画像をレイアウトする、写真を綺麗に補正してくれるなど、富士フイルムならではの機能が満載



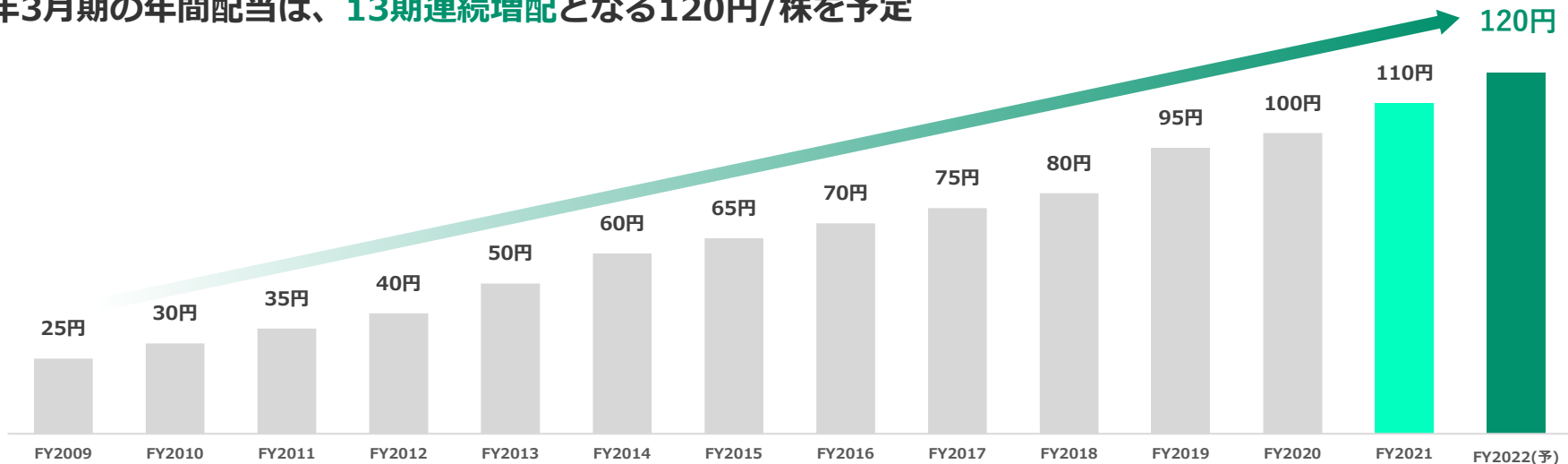


株式・株主情報

株主還元

配当金の推移

- 2023年3月期の年間配当は、**13期連続増配**となる120円/株を予定

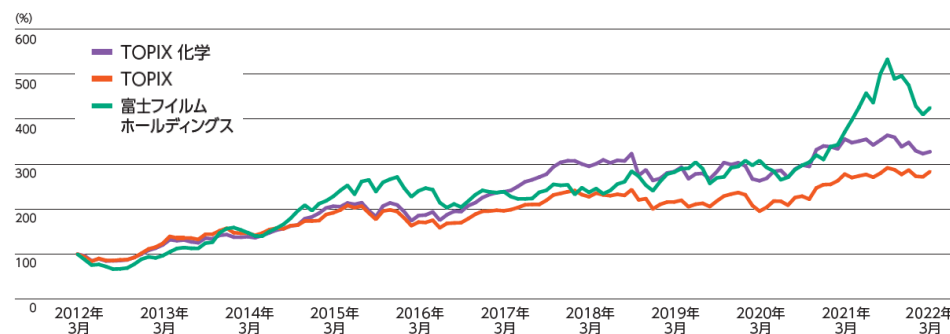


株主総利回り (TSR)

- TSR (Total Shareholder Return) : キャピタルゲインと配当を合わせた総合投資収益率
- 当社はいずれの投資期間においてもTOPIXを大きく上回る利回り

投資期間	1年	3年		5年		10年	
		累積	年率	累積	年率	累積	年率
富士フィルムホールディングス	15.8%	55.1%	15.8%	83.1%	12.9%	324.9%	15.6%
TOPIX	2.0%	31.2%	9.5%	44.3%	7.6%	183.3%	11.0%
TOPIX化学	-7.9%	15.6%	5.0%	37.3%	6.6%	227.3%	12.6%

*何れも配当込み指数
 *年率換算は幾何平均
 *Bloombergデータより当社作成



株主優待

株主優待（2021年度実績）

<7月実施 ご優待（基準日：3月末日）>



保有年数	保有株式数*2	優待内容
-	100株以上	当社グループヘルスケア商品優待割引販売*3
1年以上*1	100株以上	当社グループヘルスケアトライアルキットおよびヘルスケア商品（計2,000～3,000円相当）プレゼント*4
3年以上*1	300株以上 500株未満	当社グループヘルスケアトライアルキットおよびヘルスケア商品（4,000～5,000円相当）プレゼント*4
	500株以上	当社グループヘルスケアトライアルキットおよびヘルスケア商品（9,000～10,000円相当）プレゼント*4

*1 基準日現在、株主名簿上の当初取得日が1年前、または3年前の同日以前の株主様

*2 基準日時点の保有株式数

*3 優待割引購入は、専用お申し込みはがき、お電話、株主様専用ウェブサイトでのみ受け付け可能。店頭等では使用不可。

*4 申し込み制（対象商品、お申し込み期限等を対象株主様にお知らせ）

<プレゼント商品イメージ(一部)>



<12月実施 ご優待（基準日：9月末日）>

保有年数	保有株式数*2	優待内容
-	100株以上	当社グループヘルスケア商品優待割引販売*3
1年以上*1	100株以上	当社グループフォトブック等プリントサービス利用クーポン券（1,000円分）プレゼント*5
3年以上*1	500株以上	当社グループフォトブック等プリントサービス利用クーポン券（4,000円分）プレゼント*5

*5 株主様専用ウェブサイトでのみ使用可能。保有年数及び保有株式数により、1,000円分と4,000円分のいずれかのクーポン券を対象株主様に送付（対象サービスやお申し込み期限等は対象株主様に通知）

<クーポン対象サービス例>



富士フィルムグループについて、もっと知りたい方へ

- ▶株主・投資家情報トップ

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>

- ▶統合報告書2022

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>

- ▶サステナビリティレポート2022

<https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability/report/2022>

- ▶経営計画・事業説明会資料

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/presentations.html>

- ▶決算説明会資料

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/earnings-presentations.html>

- ▶事業概要資料

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/business-overview.html>

FUJIFILM
Value from Innovation